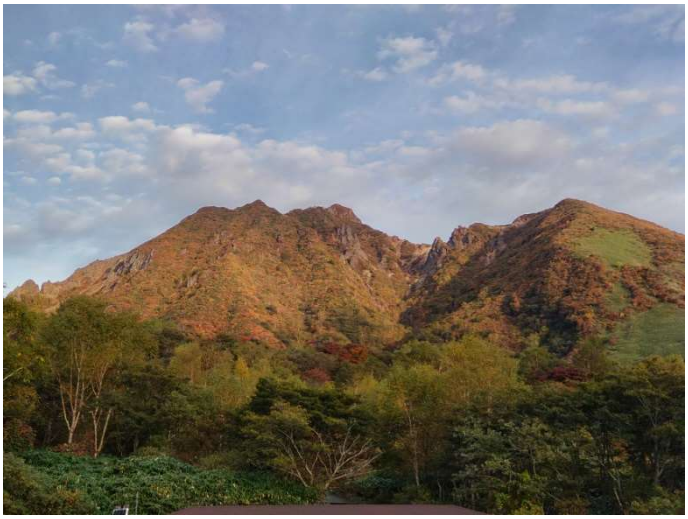

無間地獄

鹿の湯分湯場

鹿の湯は、西暦630年今から約1380年前の第34代舒明天皇の御代に狩野三郎行広という者が山狩の際に射損じて逃げる鹿を追って行くと霧雨が谷（現在の鹿の湯の場所）の温泉で傷を癒していた。
鹿によって発見されたので「鹿の湯」と名付けられたと伝えられています。

それから100年後の天平10年（西暦738年）奈良の朝廷から小野朝臣が12人の家来を連れて鹿の湯に湯治に来てる記録が正倉院文書「駿河國正税帳」にあり、その当時から都まで有名であったことがわかります。

この分湯場は、鹿の湯源泉から330mの距離を高低差5mで自然流下されており泉質は単純酸性硫黄泉で昔の貯湯槽は釘を使用しないで松の木を組み合わせて作ったのが特徴です。

栃木の
にごり湯
温泉という名の至福がここにある
とちぎ
にごり湯の会
にごりゆのかい
湯守茅屋
湯乃家旅館
日光 やまみず樹
湯元板屋
湯乃湖荘
紫雲荘
奥日光パークロッジ深山
ホテル山月
奥日光 ゆの森
奥日光森のホテル
日光山水
ホテル花庵
湯荘白樺
渓雲閣
奥日光小西ホテル
ホテル花の季
ホテル四季彩
ホテル湖上苑
大出館
やまの宿 下藤屋
奥日光高原ホテル
日光アストリアホテル
奥鬼怒温泉ホテル 加仁湯
中禅寺金谷ホテル
秘湯の宿 元乗館
あびすや
旅館 山伏
鹿の湯
旅館 清水屋
雲海閣
松川屋 那須高原ホテル
中藤屋旅館
奥塩原高原ホテル
明賀屋本館
JR
TOBU